

IRC 2010年には自動車事業の売上高を1兆円に拡大!
グローバルサプライヤーを目指しトキコ、日立ユニシアを吸収合併!

日立グループの自動車戦略 実態調査 2005年版

好評受付中!

2004年12月1日発刊

体 裁: A4判 / 370頁
 定 価: 102,900円
 (価格は税込、送料込み)

株式会社 **アイアールシー**

本 社: 〒453-0801 名古屋市中村区太閤4-4-9 TEL 052-451-8221(代) FAX 052-451-8225
 I R C 東京: 〒101-0023 東京都千代田区神田松永町7 TEL 03-3255-3461(代) FAX 03-3255-3463

<http://www.eIRC.co.jp> でも調査資料の詳細がご覧いただけます。

発刊にあたり

日立製作所は、得意とするエレクトロニクスシステムに加え、日立ユニシア、トキコ、日立金属ほかグループ各社の持つ技術や製品、事業基盤を活用して自動車機器事業を展開してきたが、情報通信を含むカーエレクトロニクス技術を核とした次世代車両技術の研究・開発に力を入れ、世界で存在感のあるリーディングカンパニーとしてさらなる成長を遂げるには、グループ内の経営資源を集結するのが得策であると判断、2004年10月1日付けで日立ユニシアとトキコのグループ2社をオートモティブシステムグループに吸収合併している。

エンジンはじめ、ステアリング、ブレーキ、サスペンションなど自動車制御の中核をなすシステム技術を集結したオートモティブシステムグループでは、自動車機器事業の連結売上高を現在の約4,000億円から2010年度には1兆円まで拡大するとの戦略目標を打ち出し、「環境」「安全」「情報」の3分野と「エンジン制御」「エレクトロニクスパワートレイン」「走行制御」「車載情報」といった4システムを基本事業領域「3分野4システム事業」として、これらシステム技術を融合した次世代電子制御システムや情報通信システムの研究・開発に取り組み、Delphi、Bosch、Visteon、デンソー、Learなどと肩を並べるグローバルサプライヤーを目指す考えである。

本調査資料は、日立オートモティブシステムグループの自動車戦略について、自動車機器事業の再編動向にはじまり、再編後の事業領域、組織、国内生産・販売、研究開発、購買、海外事業、経営目標に至るまで、同グループの事業戦略をみていくほか、各事業領域における新技術動向などを明らかにします。また、オートモティブシステムグループをはじめとする協力部品メーカーの会社概要、同グループとの取引状況、資本・人事交流などを調査・報告します。

《内容見本》「日立グループの自動車戦略実態調査2005年版」より



第-4表 E.M.S.事業部の担当分野

セクション	統括・管理者	担当
E.M.S.事業部	日立製作所オートモティブシステムグループの「E.M.S.」を統括し、各社の資源を統合し、開発の設計・開発の統括	日立製作所オートモティブシステムグループの「E.M.S.」を統括し、各社の資源を統合し、開発の設計・開発の統括
制御システム設計部	隆部 部長	旧オートモティブが手掛けてきた「E.M.S.」の「AT・CVT」ミッション・インジェクタ制御燃料噴射制御部分の設計
第一電子設計部	年男 部長	旧オートモティブにあった設計・開発業務をE.M.S.に引き継ぎ、先行開発および
第二電子設計部	人志 部長	旧オートモティブにあった設計・開発業務をE.M.S.に引き継ぎ、先行開発および
エンジン機構設計部	好之 部長	旧オートモティブにあった設計・開発業務をE.M.S.に引き継ぎ、先行開発および

第-3表 オートモティブシステムグループの部品別マーケットシェア

部品メーカー	シェア%	納入先
トヨタ自動車、三菱自動車、ダイハツ	40.2	トヨタ自動車、三菱自動車、ダイハツ
日立製作所	27.3	日産自動車、富士重工、スズキ
デンソー	17.5	トヨタ自動車、富士重工、マツダ
ケーヒン	6.8	ホンダ
三菱	6.8	三菱自動車
ボッシュオートモティブシステム	1.4	ホンダ

スロットルボディの市場シェア

部品メーカー	シェア%	納入先
トヨタ自動車、富士重工、三菱自動車	40.2	トヨタ自動車、富士重工、三菱自動車
日立製作所	27.3	日産自動車、富士重工、スズキ
デンソー	17.5	トヨタ自動車、富士重工、マツダ
ケーヒン	6.8	ホンダ
三菱	6.8	三菱自動車
ボッシュオートモティブシステム	1.4	ホンダ

スロットルバルブモーターの市場シェア

株式会社 (株) アイアールシー (I.R.C. CO., LTD)

本社: 東京都港区 千 108-0001 電話: 03-3255-3461

【資本金】5,000万円 【代表者】 代表取締役社長 藤原 隆 45名

【取引銀行】三井住友銀行(五反田)、りそな銀行(芝)、みずほ銀行(高輪台、三田)、東京三菱銀行(品川駅前)

【主要製品】プリント配線用材料及び配線板、各種制御部品(モーター含む)及びFA機器(産業用ロボット含む)、工業用ゴム、樹脂成形品・電気絶縁材料他

【構成比】プリント配線用材料及び配線板25%、各種制御部品及びFA機器20%、工業用ゴム15%、樹脂成形品・電気絶縁材料その他40%

【業績】2003年9月期 = 5,341百万円(経 111百万円) 経率(2.1%)
 2004年9月期 = 5,500百万円(経 120百万円) 経率(2.2%)

【主要取引先】(納入先) 日立製作所<オートモティブSG>および関連企業(ユニシアJKC、ユニシア九州)20%、京三電機、沖プリンテッドサーキット、山梨アビオニクス、スタンレー電気、東芝、日本精工
 (仕入先) 松下電工、松下制御機器、藤倉ゴム工業、松下電器産業

【国内拠点】厚木・第一、厚木・第二、群馬・第一、山梨、相模
 (関連企業) ユニシアJKC、ユニシア九州

【海外拠点】 - パワーステアリングスイッチ、 - ABS用リレー・フィルター、VTC/ソレノイド、 - ABS用ケース、インジェクション用フィルター、 - ブレーキ用リザーバータンクガスケット、 - コンプレッサー用センサ
 (関連企業) ユニシアJKC - パワーステアリング用Oリング、シールリング、ユニシア九州 - 排ガスバルブ用ダイヤフラム

[目 次]

第 部 日立グループの事業概要	第 部 研究開発戦略
第 章 日立製作所の概要	第 章 オートモティブシステムグループの研究開発動向
- 1 事業内容	- 1 エンジンマネージメントシステム
- 2 組織	- 2 エレクトリックパワートレインシステム
- 3 日立グループ	- 3 走行制御システム
第 章 日立グループの商品構成	- 4 車載情報システム
- 1 オートモティブシステム	第 章 アドバンスト・テクニカルセンタ
- 2 電力	- 1 開発戦略室
- 3 電機	- 2 開発プロジェクト
- 4 情報・通信	- 3 研究管理部
- 5 ユビキタスプラットフォーム	- 4 テレマティクス事業推進センタ
- 6 都市開発システム	第 章 第一事業本部
第 部 オートモティブシステムグループの事業概要	- 1 エンジニアリングソリューションセンタ
第 章 オートモティブシステムグループの概要	- 2 設計技術管理センタ
- 1 自動車機器事業の再編動向	- 3 E P 事業部
- 2 事業内容	1) エレクトリックパワートレイン開発センタ
- 3 組織体制	2) エンジン始動システム設計部
- 4 オートモティブシステムグループ	3) 発電システム設計部
- 5 提携状況	- 4 E M S 事業部
第 章 事業領域	1) 制御システム設計部
- 1 エンジンマネージメントシステム事業	2) 第一・第二電子設計部
- 2 エレクトリックパワートレインシステム事業	3) エンジン機構設計部
- 3 走行制御システム事業	4) エンジンシステム設計部
- 4 車載情報システム事業	5) コントロールユニット設計部
- 5 素材・機能部品事業	6) E M S 機器設計部
第 章 国内生産戦略	- 5 L i 電池推進センタ
- 1 国内生産体制	- 6 ザナヴィ推進センタ
- 2 グループ各社の国内生産体制	第 章 第二事業本部
第 章 国内販売戦略	- 1 シャシーシステム事業部
- 1 国内販売体制	1) シャシーシステム開発部
- 2 部品別マーケットシェア	2) ブレーキユニット設計部
- 3 部品納入状況	3) プロペラ設計部
- 4 国内販売計画	4) ダンパー設計部
第 章 設備投資戦略	5) ステアリングユニット設計部
- 1 設備投資計画	- 2 エンジン機構事業部
- 2 グループ各社の設備投資計画	1) 設計管理部
第 章 購買戦略	2) ボンプ設計部
- 1 購買体制	3) ピストン設計部
- 2 購買方針	4) 可変動弁設計部
- 3 主要部品・部材調達状況	第 章 第三事業本部
第 章 国際戦略	- 1 技術支援室
- 1 海外進出状況・計画	- 2 テクニカルセンタ
- 2 グループ各社の海外進出状況・計画	- 3 サスペンション・ブレーキ事業部
第 章 経営戦略	1) サスペンション工場・第一設計部
- 1 オートモティブシステム事業領域の強化	2) サスペンション工場・第二設計部
- 2 経営目標	3) ブレーキ工場・設計部
第 章 資本・人事交流	4) コンプレッサ工場・設計部
- 1 役員の担当分野と経歴	第 部 協力企業の実態
- 2 職制と人事	第 章 日立オートモティブシステムグループ
- 3 オートモティブシステムグループの 資本・人事交流	第 章 その他協力企業

第 部では、事業内容、組織、グループ企業といった日立グループ全体の事業概要をみていくほか、オートモティブシステムを中心に同グループが手掛ける商品構成をみていきます。

第 部では、日立ユニシアとトキコの吸収合併について詳しくみていくほか、新体制となったオートモティブシステムグループの組織図、事業領域、国内生産・販売戦略、設備投資戦略、購買戦略、国際戦略、経営戦略といった各事業戦略を詳報します。また、オートモティブシステムグループの職制と人事、グループ企業との資本・人事交流についても調査・報告します。

第 部では、オートモティブシステムグループが手掛ける「エンジンマネージメントシステム」「エレクトリックパワートレインシステム」「走行制御システム」「車載情報システム」について、次世代システムの研究・開発動向、生産・販売体制など最新の情報を明らかにします。また、新体制となったオートモティブシステムグループの研究開発部門、担当分野を詳報します。

第 部では、オートモティブシステムグループをはじめ、その他協力企業の会社概要や取引状況などを調査・整理します。

キ リ ト リ

申 込 方 法



フリーダイヤル FAX 0120-020-472 電話 052-451-8221(代)
03-3255-3461(代)

フリーダイヤルFaxをご使用になれない場合は、Fax 052-451-8246 をダイヤルしてください。また、電話による受け付けも行っております。

株式会社 アイアールシー 営業部

本 社：〒453-0801 名古屋市中村区太閤 4-4-9 TEL 052-451-8221(代) FAX 052-451-8225
I R C 東京：〒101-0023 東京都千代田区神田松永町 7 TEL 03-3255-3461(代) FAX 03-3255-3463

e I R C 行 オ ー ダ ー フ ォ ー ム

弊社では見計りによる販売も行っております。通信欄に必要事項をご記入ください。

日立グループの自動車戦略実態調査 2005年版

発 刊：2004年12月1日

体 裁：A4判/370頁

定 価：102,900円

部

当社の定価および予約価格（発刊までの代金前納に限る）は、消費税込、送料込み価格です。但し、海外への発送費はお客様負担となります。封筒に貼付してあります顧客ラベルで、住所・担当者変更等がございましたら、このオーダーフォームに新旧をご記入の上、ご連絡ください。

会 社 名：

住 所：〒

電 話：

F a x：

購 入 部 課：

担 当 者（氏名）：

印 フルネームで
ご記入ください。役 職：

通 信（見計り希望など）：

自動車産業レポート

チェック

1ヶ月間の無料見本誌送付を希望 []